

令和7年度 天津わかしお学校 学校・寄宿舎経営方針のポイント

学校の強み・・・少人数、異年齢活動、豊かな自然、遊び、寮生活

板橋区立天津わかしお学校

校長 山中 佳子

教職員のための今年度の9つのキーワード

「安全・安心に」「笑顔とあいさつ」「基本を大切に」「児童と共に」「保護者となかよし」
 「持続可能」「チームで（横の連携）」「新しさを取り入れて」「天津をPR」

教職員の3つの「わ」

使命を「わ」すれない みんなで「わ」になる 「わ」らいがこぼれる仲間

1 学校教育目標

「健康な子 体力、学力、自信をつける」

学校及び寄宿舎における集団生活を通じて、人権尊重の精神を基本とした知・徳・体の調和を図り、自ら考え、判断し、主体的に行動できる人間性豊かで健康な心と体の児童の育成をめざす。

社会性と社会力を高め、児童が地域に戻った際に自信をもち安心して生活や学習できるようにする。

2 めざす学校像

心地よいリズム、一人ひとりのメロディ、人と人とのハーモニー
 みんなで奏でる天津わかしお学校

心地よい生活リズムに乗って、一人ひとりの個性が輝き、合わさり、ハーモニーが生まれる。大人も子どもみんなで思いを込めて「天津わかしお学校」という世界に一つしかない音楽を奏でている。「ここで出会えてよかった、ブラボー！」と言える学校をめざしていく。(離れた後も愛される学校)

3 めざす児童像・教師像 ◎「なりたい自分」を具体的にもち、くじけない。

目標をもち「なりたい自分」をめざして「か・つ・や・く」する児童・教師

か・・・かんがえる つ・・・つよくなる や・・・やさしくなる く・・・くじけない

◇かんがえる

【判断力、選択力、対話力、折衝力、企画力、創意工夫】

- ・「授業の時間だけでなく、いろいろな時間」、「教室だけでなく、寄宿舎でも」、頭を動かし、考えよう。(いろいろな方法から選ぶ (self-select))
- ・覚えることだけでなく、自分で考え、意見をもち、それを人に伝えよう。
- ・相手の気持ちに気付こう。

◇つよくなる

【心身の健康、向上心】

- ・体を動かし、つよい体を作ろう。
- ・自分の弱い心に負けない、つよい心を作ろう。
- ・きまりを守り、いいことと悪いことの判断をして行動しよう。 【服務事故ゼロ】

◇やさしくなる

【人権尊重、コミュニケーション、自己有用感・肯定感】

- ・まわりには、大切な友達がいます。どの友達にもやさしくなろう。
- ・心を動かし、どうすれば相手がよくこぶか、相手の気持ちを想像し、よろこぶと思うことを

やってみよう。

- ・自分がやさしくされたら、相手の心を感じて「ありがとう」のお礼を言おう。ほかにも、いろいろな場面であいさつを大切にしよう
- ・地域や世界に目を向け、役に立てることを考え、行動しよう。

◇くじけない

【チャレンジ精神、修正力】

- ・生活や勉強の中で、うまくいかなかったことや失敗してしまうこともあっても、くじけない。振り返り、軌道修正してチャレンジし続ける。
- ・うまくいくようにやり方を工夫してみよう。
- ・あきらめずに何度でもチャレンジしよう。

指導のポイント（児童に対して、また、教職員同士において）

☆一人ひとりの持ち味、得意なことを生かせるように指導し、自信につなげていく。

☆自分の苦手な場面つまづいている子ども（教職員）を取り残さない手立てを用意する。

（「大丈夫。」という安心感をもたせる。）

4 本年度の最重点教育活動 ☆健康改善を、すべてに生きて働く原動力として以下につなげる。

(1) **社会力を向上させ、自信をもたせる。 「異年齢活動を通して生きる力を育てる。」**

- ・自己理解を深めるとともに他者意識を高める。多様な人々を肯定的に受け入れる。
- ・話し合い活動を通して、自分たちで問題を解決し、目標を達成する喜びを味わう。

そのために、

- ・児童も教職員も気持ちのよいあいさつと返事、言葉遣いを大切にする。（特に地域へ。）
- ・してあげるのではなく、児童自身が自ら考え、乗り越え、成長できるような指導を大切にする。
- ・スパンの中間に、保護者に児童の生活の様子を連絡し、学校・寄宿舎と保護者を安心させるとともに信頼関係をつくり、連携指導の効果につなげる。
- ・児童相互の「話し合い」を学校・寄宿舎生活の中に取り入れ、児童主体の学習や行事、生活をつくる。総合的な学習の時間（SDGs、環境）やいたばし学級活動の日を充実させる。
- ・自立活動「サン」「なかよし」を充実させるために、活動内容や指導方法を高める。
- ・音楽集会（音楽による交流）、図工作品展示（作品を通じた交流）、スポーツなどを大切にする。教職員も参加し、人と人とのコミュニケーションを豊かにする。
- ・地域に出て、または招いて、地域との交流や体験活動をバランスよく取り入れる。
- ・地域や世界に目を向け、役に立てることを考え、行動する。（実践例：浜清掃、難民支援活動等）

(2) **学力を向上させ、自信をもたせる。 「一人ひとりの児童の確実な伸びを保証する。」**

- ・基礎的基本的な知識技能の習得をさせる。
- ・学びに向かう姿勢を高める。

そのために、

- ・活動だけで満足するのではなく、教師が児童の中に入り、机間指導や評価シートなどを活用し、個のつまづきに対応していく。TTや学力向上専門員など人的環境を生かす。
- ・「板橋区 ①授業スタンダード、②スタンダードS（試行）」に基づいた問題解決的な授業展開と授業革新
 - ① めあて→考える→対話、交流→まとめ→ふりかえり（授業の流れ）、ノート指導
先生が答を教えるのではない。児童の意見をつなぎ、児童相互で答えを導き出すための役目。
 - ② 自己選択、自己決定し、学びを自己調整 S…self-select)
児童生徒が自己選択、自己決定、自己調整する場面を取り入れた授業や活動を、各教科等の特性や単元・題材のねらい、児童・生徒の実態に応じて、教師が選択（Select）する。

- ・**教科担任制**による質の高い授業。教材研究を深め、児童の関心・意欲・満足感に応える授業を行う。
- ・OJTや校内研究など、**発問・板書・ノート指導・ICTの活用・教材研究等の指導技術**が向上するよう教員自らが課題意識をもって日々研修をする。
- ・**学習習慣（＝意欲）の定着を図る（学舎連携）**
学力向上担当を中心に、宿題の取り組ませ方や朝学習の内容、みとり方や評価方法を工夫し、児童が意欲をもって取り組めるようにする。併せて**学校と寄宿舍の連携**を推進していく。
- ・ICTやクロームブックを活用し、「話し合い」や「思考」の目に見える化や個にあった学習や復習・予習を充実させ個の学びの最適化を図る。
- ・心地よい緊張感のある学校と癒やしと楽しさのある寄宿舍の相乗効果を図る。
心に余裕がないとき、ほかの人やもの、ことに気持ちが向かわない。学校で一生懸命に集中して取り組んだら、寄宿舍で楽しい行事や遊びやスポーツ、工作、人形劇などで癒しと楽しさを味わえるようにする。大人と同様に、児童の「オン」と「オフ」を理解し、大切にする。